

あうみネット



BIWA CHAN

淡海の市民活動・ネットワーク情報交流誌
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

●発行日 / 2009年7月1日 ●発行所 / (財)淡海文化振興財団

No.

69

2009年
7・8月号

特集●淡海トピックス

つながりで盛り上げる 地域づくり

■NPO さぼーとぼけっと ①

市民活動のプレスリリース
～その①～プレスリリースってなに？

■市民団体活動紹介 NPO のわッ ⑤

- 生き生きクラブ
- アートサポートたかしま
- 稲枝青楽団

■あうみネット★INFORMATION ⑦



折紙飛行士養成講座・折紙飛行士になろう！

日時●7月26日(日) 10:00～16:00
場所●米原市米原公民館 2階 工芸室
参加費●1人3,000円(教材、受験費込み。小学生受講者の付き添いは1人迄可)
連絡先●米原市米原公民館
TEL: 0749-52-2240
折紙SPAPS、日本折紙飛行士協会の活動事業等についてはTEL: 0749-52-6833

折り紙ひこうきの知識を深め、伝統型、複葉型、機能型等の紙ヒコキを題材にしながら、「折りの工夫」を学びます。午後には独創的な発想でオリジナル機を作って「折紙飛行士」資格にチャレンジします。



絵本とおはなしのあるふれあい広場 “かめのへや”

開室期間●5月5日～11月1日(6か月間)
開室日時●金・土・日(10:30～15:00)
場所●JR近江今津駅から琵琶湖を背に徒歩5分、
赤い怪獣の散髪屋さんの向かい側
連絡先●NPO法人絵本による街づくりの会
TEL: 0740-27-8156 FAX: 0740-27-8157

当会念願の活動拠点となる場が、期間限定でオープンしました。赤ちゃんから高齢者まで自分のペースでゆっくり過ごせる絵本のある空間です。絵本と人、人と人とつながる場として、おはなし会、親子手作り教室、ミニ絵本講座、大人向け読書会などを行っています。



運営委員 VOICE

「第8回世界湖沼会議での出会い」

井手 慎司
 (滋賀県立大学環境科学部 教授)



いまから10年前の1999年5月、私はコペンハーゲンで開かれた世界湖沼会議に参加していた。某旅行会社が企画した会議への参加ツアーに随行員のような立場で参加したものの、このツアーで、赤野井湾流域協議会のメンバーなど、環境保全のために県内で活動している多くの人たちと出会う。それまで、市民活動などとまったく無縁であった私にとって、ツアーでそれらの人たちとすごした体験は鮮烈だった。熱い想いに圧倒されそうだった。その影響だろう、帰国後、ツアーの参加者たちと、2年後に大津で開催されることになっていた第九回世界湖沼会議に向け、会議を市民の手づくりの会議にすることを目指して、湖沼会議市民ネットという団体を立ち上げることになる。今から思うと、これが私にとっての市民活動の始まりだった。

※運営委員は、市民の意見を当財団の運営に反映するため、公募も取り入れた委員を設置しています。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

「私とおうみ未来塾」

8期生 河林 利明(カワバヤシ トシアキ)
 グループ：中山道410(よいわ)
 所属：生活協同組合コープしが甲南センター



おうみ未来塾の名前を聞いたのは、職場の上司からの紹介でした。5年前、滋賀県で地域の活動を学ぶ場があるから参加してみないかと。生協の組合員活動の事務局をしているなら滋賀県での人のつながりをつくるのが大切であることも感じていましたし、職場以外の人とのつながりは自分自身の幅も広がる機会になると思い参加しました。未来塾では滋賀県のことを知る機会になりました。一番の財産は人とのつながりです。老若男女が集い活動を進める中でたくさんの方と出会いました。グループ活動では、近江中山道で「わ(話、輪、環、和)」を築く試みに取り組みました。今も、中山道410で活動を継続しています。2012年の「中山道410年祭」にむけて一歩を踏み出しつつあります。先日長野県に嫁がれたメンバー宅にお邪魔し、長野の中山道宿場町を見学してきました。中山道410はメンバー募集中ですのでご参加お待ちしております。

※おうみ未来塾は、地域の課題解決を実践する「地域プロデューサー」が育つ塾です。

●NPOさぽーとぽけっと●

あなたのNPO活動をサポートする情報をお届けします。

NPO SUPPORT POCKET

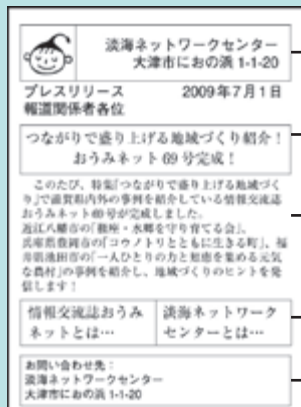
市民活動のプレスリリース ~その①~プレスリリースってなに？

みなさんは、活動や取り組む地域課題を広く知ってもらうために、講座やフォーラム、コンサートなどイベントを開催されていると思います。その広報では、公民館や図書館でチラシを配布する、メールでのお知らせ、ホームページやブログへの掲載など様々な取り組みでおられることと思います。今回は、広報手段の一つとして「プレスリリース」をご紹介します。

プレスリリースってなに？

プレスリリースとは、新聞社、放送局などの報道機関、マスコミに向けて情報発信することを言います。「記者資料提供」あるいは「報道資料提供」とも言います。新聞社など報道機関に直接連絡をする方法もありますが、県庁や市役所の記者クラブなどで、資料提供をする事もできます。記者クラブでは、事前に申込みをすると記者へ説明できる記者会見をすることもできます。県庁や市役所の広報課に問い合わせてみましょう。必要部数や資料提供の時間を確認して提出します。

新聞などで掲載されると多くの方が目にします。また、マスコミに取り上げられることで信頼度も上がります。そして、自分たちの活動に関心を持っているマスコミがあることは励みになりますよね。



プレスリリースのための準備

プレスリリースは、その資料を手にした記者が内容を簡潔に理解できることが大切です。たくさんの方が出される中で、記者の目に止めてもらう必要があります。広報したい内容をA4用紙1枚程度に見やすくまとめたものを作成しましょう。プレスリリースのフォーム例をご紹介します。団体や活動に合った雰囲気のあるフォームを作ってください。また、作成したものは、間違いが無いか、文章はわかりやすいかなど、複数のメンバーで確認してから提出するようにしましょう。

プレスリリースの発信元を記載。住所、電話番号、ファックス番号などを書きます。ロゴマークなどがあれば、覚えてもらえますね。

タイトルとサブタイトルを付けます。

最初の段落は、簡潔に。本文では、5W1Hを意識して書きましょう。写真を入れて雰囲気を伝えるのもいいですね。

団体の活動概要や補足事項を書きます。

問い合わせ先を書きます。

WHO (誰が)
 WHAT (何を)
 WHEN (いつ)
 WHERE (どこで)
 WHY (なぜ)
 HOW (どのように)

つながりで盛り上げる地域づくり



中川芳江さん●プロフィール

総合電器メーカーでビジネスコンサルタント等を経て起業。生き物の目線・人の目線等から、自然環境保全のプロセスをデザインする。環境関連のシンクタンク、コンサルティング業務を行い、自然環境保全を活かした地域プロデュースを通じ、行政・NPO・企業連携の取り組みにも詳しい。関西学院大学非常勤講師。共著「ソーシャル・アントレプレナーシップー想いが社会を変える」(NTT出版)

※(財)滋賀県産業支援プラザ、当センター主催で、四月二十三日、「コラボしが21」にて開催しました。新しいビジネス形態を県内の事例報告で紹介し、国の経済政策について最新情報が報告されました。

元気なまちづくり、地域づくりが各地で注目を集めています。今回は、農業と商業、市民と行政など、地域を支えるつながりが、知恵を集めて、地域を盛り上げている事例をご紹介します。

まずは、自然環境保全と経済活動の共存を実践する株式会社ネイチャースケープを設立し、当センター市民事業創出支援プロデュース委員でもある中川芳江さんに「地域づくり」と「つながり」についてご紹介いただきます。

「つながりから生まれてくるもの」

株式会社ネイチャースケープ 専務取締役 中川芳江さん

本年四月に開催された「地域ビジネスネットワークフォーラム」コミュニティビジネス、農商工連携で地域に活力を！」には、百名を超える方々の参加があり、何か変えたい、手掛かりを見つけたい、そういう皆さんの思いを感じていました。

以前、行政と市民の協働・連携が話題になった時、「協働のために協働するのではなく、協働することを得られるメリットのために

協働するのですよ」とよく申し上げました。経験者の方は実感されておられる通り、連携と一言で言っても実はこれほど面倒で大変なものはありません。考えることは百人百様、他の人・組織・セクターには、自分と異なる思考回路があることを覚悟せねばなりません。その中で何かを形づくっていくには大変な技と忍耐が必要で、それでもなお、つながることにはメリットがあります。

メリットの一つに、新しい触発で自分さえも変わるような発想の進化があります。これはとても楽しく、『コラボレーション』と申せましょう。コラボレーションは、最近はやりの言葉になり、単に共同作業を指して使われることもあります。他者や自分のアイデア・考えが触媒となって相互の発想が進化することを指します。つながることの醍醐味はこれではな

いかと思うのです。

冒頭のフォーラムの趣旨は、地域活性化には連携という選択肢がありますよ、なのですが、今回の特集で紹介されている事例でも、中心的な役割を担うことになつてしまつた人達でさえ、苦勞を厭わずどこか楽しげです。楽しい理由は様々ですが、大儲けできるからではないようです。コラボレーションを特別意識していなくても、人々の間を行き来し人々をつなげているものは、人・物・金・情報、加えて、知恵・価値、そして想い、なのです。これらを上手に使い循環させることができると、結果として、それが盛り上がりになつていくのだらうと思います。

ところで、この「楽しげ」はどこから来ているのでしょうか？

平たく言えば「やりがい」かも知れませんが、「こんなことができた自分をほめてあげたい」「あの人あんなこともできるんだ！」「苦難はあるものの責任感と表裏のところで見つけた自分や他者の存在意義なのではないでしょうか？

ひやくしやういっぴん 「百匠一品」

一人ひとりの力と知恵を集める 福井県池田町

●ふるさとの農家に元気と自信を

福井県池田町は、人口約3,400人、その約40%が高齢者、年々人口減少が進む過疎の町である。かつて、この町の若者は自分の出身地を小さな声でしか言えなかった。1999年、自分の故郷に誇りを持ってほしい、地元産業である農業を元気にしたいと、町長が取り組んだのが福井市内のショッピングセンターでのアンテナショップ「こっぱい屋」の出店。「こっぱい」とは方言で「ありがたい」という意味。農家が自家用に丹誠こめて栽培した野菜を生産者が直接売る店だ。「百匠一品」として、生産農家一人ひとりが一品ずつ多く栽培して協力。消費者との交流を通じて、生産者として自信と学びを得る場となった。



●知恵と力を集めて、連帯を感動で育む

当初80人だったこっぱい屋の生産農家は、現在160人になる。町独自の認証制度で有機農業や減農薬栽培をアピールし、安心・安全な農産物を求める消費者に応え、順調に売り上げを伸ばしている。品揃えも米、野菜、漬物などの加工品、惣菜、手工芸品など多岐多彩。

2002年、「故郷の環境をいかに守り伝えるか」「自分達にできることは何か」をテーマに、役場が呼びかけ、町民による「100人のパートナー会議」が始まった。自分たちで実践すること、住民と行政が力を合わせて取り組むこと、町の施策として進めることなど役割分担を明確にし、環境理想郷を目指すことが決められた。この会議を土台に町民が環境パートナー池田を結成。エコポイント事業や環境情報を発信している。有機農業とエコを組み合わせた循環型農業を進めるために設立された、NPO法人環境Uフレンズが町内の生ゴミを回収。町営「あぐりパワーアップセンター」で堆肥化し、堆肥「土魂壤」を主に町内向けに販売している。

また菜の花プロジェクトの一環として回収する廃食油を使い、子どもから高齢者までみんなで作り上げる手作りイベント「いけだエコキャンドル」が2005年から始まった。昨年は県内外から5,000人が集まり、感動と充実感が人々の連帯を育んでいる。

●一人ひとりが地域のために動き出す、元気な農村モデル

池田町役場に勤め、環境Uフレンズのボランティアとして生ゴミ回収にも参加している溝口淳さん。

「町内中を回る生ゴミ回収も、人との出会いあり、地域発見ありで、メンバーが楽しみながら取り組んでいます。国際有機農業映画祭、冬の池田を暖める『ろばたコンサート』、日本農村力デザイン大学など、楽しみながら一人ひとりが地域のためにできることを考え、集まり、行動し、それが自信になってきました。元気な農村のモデルとして全国に発信していきたい」と語る。

【問】福井市池田町役場 総務政策課
福井県池田町福荷 35-4 TEL : 0778-44-8004

事例紹介

「楽しげ」に後押しされ、社会やコミュニティで必要とされる役割の一端を自発的主体的に担う姿こそが地域活性化だと私は思っています。

実は、もう一つ大事なことを得ていることと思います。自他の存在意義の認識と同時に、自他の相違にも気付いたはず。それでもコラボレーションでき盛り上げられたのならば、それは「共存」

ひいては「共生」ができていくことになり。共生社会の実現を」と言われなくとも、既にそれを実践しているのですね。

自然再生や保全を仕事としてい

る私としては、人間社会だけではなく生き物たちもいのちをつむぐことのできる、「共生」とは言わないまでも「共棲」くらいはできる盛り上がり、となることを願っています。

取材をとおして、市民、企業、団体、NPOなどが主体的につながり、それを行政が地域全体を見ながら必要に応じて支えていくという地域の姿がみえてきました。関わる一人ひとりの「つながり」の中で、地域で目指す目標や未来像を共有し、それぞれの特性を活かして、役割を担う。そんな地域を支えるネットワーク作りを淡海ネットワークセンターも支援しています。これからも地域を元気に盛り上げる「つながり」をご紹介します。



コウノトリとともに生きるまち

兵庫県豊岡市

●豊岡市とコウノトリ

明治時代、コウノトリは稲を踏む害鳥として、各地で狩猟対象になり数を減らしていた。そんな時代、豊岡市は独自に繁殖地を観光にも活用し、減りつつあるコウノトリを保護。「生きものを追い詰めない“ええかげんさ”がこの辺りの人の気質でしょう」と語る佐竹節夫さんは、豊岡市教育委員会文化係から約20年間コウノトリ保護とまちづくりに関わり、現在コウノトリ湿地ネットの副代表を務める。

1921年、減り続けるコウノトリは天然記念物に指定される。しかし、戦後復興、高度経済成長の中、効率的な農業と農業は水田周辺の生物を減らし続け、1971年、野生のコウノトリは絶滅。兵庫県と豊岡市が25年間に渡って人工飼育の試みを続け、1989年に人工繁殖に成功し、コウノトリ野生復帰への第一歩となった。

●コウノトリが導く持続可能な仕組みづくり

コウノトリは湿地や水田に住む多種多様な生物を餌とし、つがいは数km四方を餌場にする。コウノトリが住める地域とは、水を蓄える山と多様な生物が生きる水田や湿地がある農村。1960年代、市役所が呼びかけ、農協や学校、市民が保護活動を始め、餌のドジョウを持ち寄り「ドジョウ一匹運動」などが広がった。市民もコウノトリと生きるまちづくりについて考え、生活を見つめ、動き始めた。

放鳥が進む現在、環境と経済がともに発展する仕組み作りとして、農家、企業、市民の協力が広がっている。農家は、安心、安全な農産物ブランドとして定着する「コウノトリ育む農法」に取り組み、米や大豆を生産。企業は、市内11企業でコウノトリ羽ばたか会(株)を設立し、コウノトリブランドの菓子など商品開発を進め、販路を広げる。コウノトリを核にしたグリーンツーリズムや修学旅行も呼び込み、コウノトリの生態調査、水田の生物調査、都市住民との交流をNPO法人コウノトリ市民研究所、コウノトリ湿地ネットが実施する。

●コウノトリを日本の空へ羽ばたかせたい

2002年、野生のコウノトリ「ハチゴロウ」の飛来をきっかけに放鳥への取り組みが進んだ。現在約30羽のコウノトリと約9万人が共存する豊岡市。「ハチゴロウの戸島湿地」を管理し、市内のコウノトリを見守る佐竹さんは語る。



「コウノトリ育む農法は、農業に頼らず、昔のように自然を見て、知恵と手で工夫する農業。ここには自分で工夫し、自然と共に生きる生き方が、豊かで面白いと感じる人が増えてきている。『豊かさとは何か』を問う、コウノトリと共に生きる持続可能なまちづくりを、コウノトリと共に日本の各地へ羽ばたかせていきたいと思っています。」

【問】NPO コウノトリ湿地ネット
兵庫県豊岡市城崎町今津 1362 TEL : 0796-20-8560
e-mail : toshima8560@iris.eonet.ne.jp
URL : http://shicchinet.exblog.jp/

【問】豊岡市コウノトリ共生課
兵庫県豊岡市中央町2-4 TEL : 0796-23-1111 (代表)
e-mail : kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp
URL : http://www.city.toyooka.lg.jp

水郷風景を守る酒から 広がるつながり

権座・水郷を守り育てる会

●権座の再発見

近江八幡市の西の湖には、先人がヨシ地を開拓し、湖底の土を積み、石垣で守り、田舟で渡って稲作を続けてきた、歴史と文化を伝える小島が多数点在していた。干拓事業が進み、現在唯一残るのが「権座」である。2006年、里山や棚田など人と自然が作り出す文化的景観を保護する、国の「重要文化的景観」第1号に権座の地域が選ばれた。同年、おうみ未来塾※のグループが、権座の農家と出会い、「この風景を守りたい」「権座を中心にこの地域を元気にしたい」と、地元住民らとともに権座水郷コンサートを企画。田舟の櫓こぎ体験や縄編み体験も盛り込んだコンサートを実施した。参加した農家は田舟や縄編み体験が、都会の人に喜ばれることに驚き、また集った800人が、唯一残っている水郷風景に感動し、これを残していきたいとの思いを共有する機会となった。

※おうみ未来塾は、地域のひとともに地域の課題解決の方策を見つけ、実践する「地域プロデューサー」が育つ塾です。約200名が卒業し、各地で活躍しています。

●共感をつなげ、経済で支える仕組みを作る



コンサートの後、地元白王町営農組合は、権座での営農を安定させようと近年栽培が復活した酒米「滋賀渡船6号」の生産に取り組み。収量も限られるこの酒米の醸造を、権座の保全に共感する東近江市の喜多酒造が引き受けることになり、水郷を守る酒「権座」が誕生した。そして酒「権座」を中心に、人、企業、団体のつながりが広がり始める。酒米を削る過程で出る糠を使う漬物を商品化する白王町営農組合女性部。米粉を使ったパンや菓子などは県内のパン屋、共同作業所が試作。酒瓶のラベルはやまびこ作業所で作られた西の湖のヨシ入り手漉き和紙。湖魚など生き物を守るNPO法人旅するおさかなサポーターが水田魚道を設置し、安心・安全栽培をアピール。酒「権座」の販売は、酒流通の(株)エスサーフが水郷「権座」の保全に共感する酒屋を広げている。地酒ファンは純米吟醸酒「権座」に舌鼓を打ちつつ水郷「権座」の保全を支える仕組みだ。

●地域を元気にする輪を広げるために

今回、お話を聞いた広報担当の藤田知丈さんは、水郷コンサートを仕掛けたグループの一人。「この水郷風景を守りたいというつながりは、地元の中で、楽しみながら担ってくれる人や信頼のある人との出会いによって、地域の中に理解が広がっていきました。地域の人が誇りを感じられる物語を発掘し、それを伝えていくこと。外から応援する仲間を呼び込むこと。おうみ未来塾の人脈や近所など、身近なところから伝え、動き出し、次々と人の繋がりが広がりました。この景観に育まれてきた生活と文化と歴史を伝える酒「権座」とそれを支える人々の魅力を広報していきたいですね」。権座・水郷を守り育てる会では、水郷の風景保全活動を応援してくれるサポーターを募集している。

【問】権座・水郷を守り育てる会
滋賀県近江八幡市白王町集落営農組合内
TEL : 090-8124-7649 (大西) FAX : 0748-31-0801
e-mail : staff@gonza.jp URL : http://gonza.jp/

話 生き生きクラブ(近江八幡)

まず、いきなりですが：「みなさんの笑顔、本当にステキでした！」
 活動日だったこの日、みなさんとお話をさせていただいた率直な私の印象です。
 この「生き生きクラブ」の誕生は、退職後の男性の居場所作り、会社人から地域人へ、を目的に、市社会福祉協議会が実施した「男性のための健康福祉講座」(二〇〇三年度)がきっかけです。講座自体は一年で終了しましたが、仲間や居場所を見つけた人たちが、自然な形でこの「生き生きクラブ」を結成しました。
 会の活動は次の三本柱。①八幡山環境美化活動②野間邸環境美化活動③おやじ喫茶です。

①は、観光地として有名な八幡山にある豊臣秀次の城跡が、以前は土や雑木林や枯葉などで見ることのできない場所でした。そこで「約四百年前の石垣を今に蘇らそう!」を合言葉に、命綱をつけながら手探りの作業で、約二年を要して、見事に蘇らせました。この活動は「男のロマン」だそうで、現在は出丸の整備も進められ、「男のロマン」は現在進行形です。
 ②は、伝統的保存地区にある近江商人「野間清六郎」の屋敷や庭園の清掃です。三十年以上も空



▲野間邸環境美化活動

家だったこの地に「NPO法人しみんふくし滋賀」が介護サービス事業の拠点としてスタートする際、修復作業や掃除を行い、現在も定期的に美化活動を行っています。
 ③は、約七か月間、プロから受けた特訓の成果を生かす取り組みとして、各種イベントやデイサービスなどで、プロ並みの腕前のおいしいコーヒーを出しています。
 「我々は、活動の場を提供いただいているおかげで、楽しみの場も与えてもらっているんです。」活動以外にもゴルフや花見をやることかな(笑)楽しいと思ふことと地域の役に立つこと、この絶妙なバランスがきつとみなさんのキラキラした笑顔につながっているんですね。
 (おうみネットサポーター 中塚一恵)

生き生きクラブ

代表●庄田幹夫
 設立●2004年 会員●28名
 連絡先●近江八幡市出町491(事務局:大石修)
 TEL/FAX: 0748-32-7768
 e-mail: ooisi@tulip.sannet.ne.jp
 URL: http://www.geocities.jp/hachimanikiiki/



▲男のロマン「八幡山環境美化活動」

輪

NPOの

わっ
WAA

和

話

地域や社会を良くしていきたいとがんばっている市民活動・NPOを紹介します。興味を持たれた団体に連絡してみませんか？

おうみネットを一緒につくりませんか？

おうみネットサポーターを随時募集しています。興味のある方はセンターまでお問い合わせください。

このコーナーは「おうみネット」発行をサポートする「おうみネットサポーター」が市民活動団体・NPOの情報提供から取材・執筆までを行っています。



●プロ並みの腕前、生き生きクラブの「おやじ喫茶」

話

輪



●アートサポートたかしまのメンバーとボランティアの皆さん(真ん中が代表の亀井さん)

和



●稲枝青楽団が製作した「稲枝ふんどし」

和 稲枝青楽団 (彦根)

稲枝を盛り上げたい若者あつまれ!

稲枝青楽団は彦根市稲枝を拠点にして活動している青年団。活動のきっかけは、二〇〇八年六月四日から始まった彦根市の井伊直弼と開国百五十周年祭の市民創造事業に送った一通の企画書からでした。この祭りを盛り上げる市民グループ「ひこねを盛り上げ隊」から彦根の中心地からしか企画書が出ていない。稲枝からもぜひ出してほしい」という依頼があり、稲枝青楽団として、イベントの企画書を提出。ここから、活動が始まりました。



▲麻布ふんどしを売る稲枝青楽団の面々

青楽団の設立は容易だったと言います。稲

枝では青年団員の後継者がいないという現状があり、青年団の設立を地元が後押し。馬場さんの人望で同級生を中心にメンバーも集まりました。

現在の主な活動は、伝統産業と文化の振興。具体的には、麻織物近江上布のフンドシ加工販売。稲枝青楽団が企画した講演会で知り合った、近江上布の伝統工芸士・大西さんとの出会いをきっかけに実現しました。そして、最も力を入れている活動は、地域のお祭りの企画。二〇一〇年の夏にも地元での祭りを企画しています。内容はまだ明らかにされていませんが、地域の人の絆を祭りで深めていきたいと考えています。

これらの活動を通じて、馬場さんは、「こ

の時代によろやってくれるなあ。こころうさん」と地元の人にありがたがってもらえることにやりがいを感じていると言います。「若いころは自分のやりたいことだけをやってきました。しかし、現在は、自分のやりたいことをしながら、人に感謝されるという二重の楽しさがあります。自分のような若い人たちにも、この楽しさを伝えていけたら、そして、一緒におもしろいことをしたい」と言います。

現在、二十八歳の馬場さんに十年後はどうしているかと聞いてみました。馬場さんは、「引退しているやろうな」と一言。確かに、もう青年ではない年頃。しかし、そのあとに「あのやつらが、おもしろいことを続けていてくれたらそれでいい」。面白きこともなき世を面白く。馬場さんの好きな高杉晋作の言葉です。

(淡海ネットワークセンター スタッフ 膽吹憲吾)

稲枝青楽団

代表●馬場昭
設立●2008年
団員●9名
連絡先●彦根市本庄町60 稲枝地区公民館内
TEL: 0749-43-2389
e-mail: inasei8@gmail.com



▲稲枝青楽団の馬場さん

輪 アートサポートたかしま (高島)

アートの力と『そばにいる』ことの大切さ

初夏のような汗ばむ陽気の日、等身大自画像制作に思い思いのスタイルでとりくむ参加者に笑顔で話しかけながら飛び回っていたのが代表の亀井さん。

京都に住む亀井さんが、高島市でアート・サポーターとして活動するきっかけになったのは、二〇〇四年秋、京都造形芸術大学情報デザイン学科二回生時の授業で、障がいのある人の絵画を見たことでした。どんな風に絵を描いているのかに興味を持った亀井さんは、滋賀県でアート・サポーター派遣事業をしていることを知り、早速サポーター見学に。黙々と絵を描き続ける姿や真似できないような自由な形や色合い、絵に込める思い等に圧倒され、衝撃を



▲等身大自画像制作中

うけたそうです。その後、滋賀県内でアート・サポーターとして活動。二〇〇七年春からは、亀井さんが一番惹かれた絵の制作者の住む高島市でアート・サポーターとしてボランティアを始めました。その翌年二〇〇八年四月に「アートサポートたかしま」を立ち上げ、メンバー六名で毎月第一日曜日に活動。母校のこども芸術学科で仕事をしていることから、活動日には大学の教授やゼミの学生がボランティアとして参加することも。参加者は小学生から六十代の十五名、徐々に増えているそうです。また、毎年展覧会を開催し、今年も八月と十二月に開催予定です。

活動を通して、改めて『そばにいる』ことの大切さを再確認したとのこと。「同じ時間を共有することを大事にしながら、これからも参加者とサポーターが対等に一緒に楽しみながら造形活動に取り組んでいきたい」と五月晴れのような笑顔で抱負を語って下さいました。

(おうみネットサポーター 平松成美)

アートサポートたかしま

代表●亀井友美 設立●2008年
会員●6名
連絡先●高島市新旭町新庄487-3
湖西地域障害者生活支援センターわになろう内
TEL/FAX: 0740-25-4017
e-mail: shientel8276@yahoo.co.jp




▲完成した等身大自画像と一緒に記念写真




市民活動、NPO運営のご相談 いつでもどうぞ！

市民活動、NPOの運営についてご相談を受け付けています。お電話、メール、直接お越しいただいても結構です。ご連絡お待ちしております。

●最近の相談事例

 子どもの自然な成長を見守る保育園を運営しています。NPO法人になり、運営したいと考えています。NPO法人として保育園を運営する長所、短所を教えてください。

 NPO法人は、地域の課題解決を目的に設立し、活動や経営を市民に公開し、信頼を得て、市民に支えられ運営します。保育園を子どもとその親の支えになる場として、地域に必要とされるNPO法人となり運営することは安定した経営を目指す上で長所と言えるでしょう。一方、地域への広報、報告など事務的負担もあります。

●ミニ講座：毎月第2金曜日 14:00～15:00
NPO・市民活動って何？ NPO法人設立のメリット・デメリットは？ NPO法人設立の手続きは？ など市民活動・NPO活動についてのミニ講座を開催しています。お気軽にご参加ください。

ワークコーナーでラミネーター A3版が使えます！

ワークコーナーにA3版のラミネーターが入りました。イベントでの案内や展示に便利です。ご利用ください。

- ラミネーター（フィルム料金込み）
- A3 1枚200円 ●A4 1枚150円

市民活動講座「情報発信しよう！」のご案内

NPOや市民活動団体が活動を進めているためには、情報発信はとても重要。とは、わかっているけど、「パンフレット」や「通信」の作成は、何から手を付けていいのか…と悩んでいませんか。そんな方にオススメ！です。活動への思い、活動内容などをわかりやすく伝える紙面作り、記事作りをワークをおして学びます。みなさんのご参加お待ちしております。

<①パンフレット・通信をつくろう>

◆日時：8月23日(日) 13:30～16:30

<②記事を書こう>

◆日時：8月30日(日) 13:30～16:30

◆講師：①パンフレット・通信をつくろう
藤田知丈さん
(マルチメディアセンター)

②記事を書こう
祖父江立美さん(うーぴ企画)

◆会場：マルチメディアセンター(①②とも)
(近江八幡市出町)

◆定員：25名

◆参加費：1人1回500円

※詳細は、チラシおよびホームページをご確認ください。

市民事業車座談義のお知らせ

「風は湖北から みんなでつくる地域資源を活用したまちづくり」

時代は全国画一的な総合開発から、地域の自然や伝統文化、生活文化を生かし、地域の人たちが、自分たちのことは自分たちの手で、自分たちの責任において行うまちづくりへと大きくシフトしています。

今回は、湖北のまちづくりにみる、参加と連携やそれを支える行政関係者にスポットライトを当て、地域資源活用事業に関する事例発表、意見交換を通して、市民事業開発の協働・連携ネットワークを創っていきたくと考えています。湖北でユニークな活動を展開している団体や行政関係者、都市農村交流に関心のある県内外からの参加者など、多様なバックグラウンドをお持ちの方に参加していただけますので、ご期待ください。これはと思うアイデアの持ち込みも大歓迎です！

◆日時：7月18日(土) 14:00～17:30

◆会場：大戸洞舎(湖北町上山田)

◆話題提供：「全国の事例に学ぶ 地域資源を活用したまちづくり」

◆事例発表

- ・(株)まちづくり湖北
- ・NPO法人湖北ええもん本舗
- ・余呉町協働のまちづくり

◆定員：25名程度

◆参加費：500円(お茶・お菓子つき)

※詳細は、チラシおよびホームページでご確認ください。



淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com

■E-mail:office@ohmi-net.com

開館時間／9:00～17:00 休館日／月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、びわこ銀行、滋賀県信用組合、公民館、各地域環境総合事務所、県民情報室など

編集後記

みなさんがもし活動で行き詰まりを感じたら…ひよっとしたら、どこか元気なグループとおしゃべりされるといいのかも。きっといろんなヒントがうまれて、元気でもらって帰れるのかもしれない。「生き生きクラブ」さん取材してそんなことを感じました。(おうみネットサポーター 中塚一恵)

今回の取材で、等身大自画像というものに初めて出会いました。黙々と制作に取り組んでいる人、「ここはこんな模様」「ここはこの色」とボランティアに上手に指示？して、一緒に制作に取り組む人。向き合う作品は違っても、同じ空間で同じ時間を共有している中から生まれてくる作品達。今年の展覧会も楽しみです。(おうみネットサポーター 平松成美)

稲枝音楽団は、とにかく楽しそうでした。学園祭のようなぐっとまとまって盛り上がる雰囲気がありました。地域活動は、発想の転換で、楽しくなるということを感じることができました。(淡海ネットワークセンタースタッフ 膽吹 恵吾)

E-mail : u-pi@mx.biwa.ne.jp



What's that?

Wing?
Tail?

〒520-0818
大津市西の庄19-10 リンクスビル2F
TEL: 077-525-7107
FAX: 077-525-7106

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌 「おうみネット」 掲載広告募集中!

- ★発行部数10,000部
- ★県内外の配布先約1,900カ所
- ★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください!

